

文
山
雜
談

番
外
書
冊

庫	文	閣	内
三	八	和	
函	七		
六	八	書	
架	一	類	
	冊		
	號		
			(三)

内閣文庫	
番號	和 18781
冊數	5 (3)
函號	212 55

三



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

復山雜談三草文庫

譯ト云ハ我國ノ故實ニテ天子ニカキリ申不^イ夏ナリ

天子ノ御名字ハイニサケテ用又夏ナリ是故ニイ

三ナト訓スルナリ神^カ甕^カ 嵯峨帝 郡ヲ新居ト改

ラレタル類國史ニ見エタリ異國ニテハ天子ヨリ度

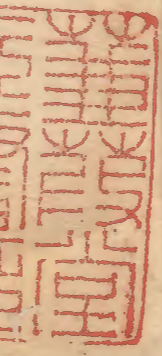
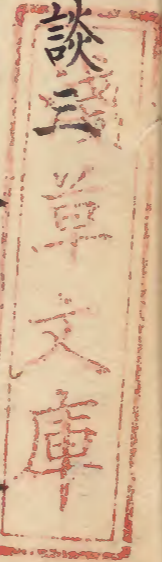
僖侯ノ名ヲ司徒トイヒタル故ニ司徒ノ官ヲ中軍

ト改メ宋武ハムヲ司空トイフ故ニ司空ノ官ヲ

司城ト改メ呂后ヲ雉トイヒシ故ニキジヲ野雜

トイヒタルナリ山川土地ノ名ヲ樂種ノ名ニテモ

トイヒタルナリ山川土地ノ名ヲ樂種ノ名ニテモ



ラタメタル也アリ

國人ト云字ヲクニタミトヨム也ハ後嵯峨院ノ御
諱ヲ邦仁ト申奉リシ故ニ是ヲサケルナリ又
トイフ文字ヲヨノヒト、ヨニ或只ヒト、ハガリヨ
ム也モ後宇多院ノ御諱ヲ世仁ト申奉リシ
故ナリ

摂津國栢梨莊ヲカヘナレトイフ栢ヲカト云
古又モムカシ賀陽親王ノ御名ヲサケタルトナリ
異國ニハ字アリ我國ニハアザナツク也ナレトモ世
ニ名ヲ字ノ如ク思フハ僻也ナリシカレトモ詩

大和物語ノ字仲
平貞文字ナリ

文章家ニハ字ヲツクナリ詩文章ハ異國ノ法ナ
レハナリ日本ノ詩文章家ノ字ノ法ハ姓ニ一字
ヲ加テツクナリ菅三聖善善耀清文文琳文
ノ類ナリ

○古人ノ名ニ磨ノ字ヲツキタル男子ノ美称ナリ磨
ト書ハ假名書ナリカナハトイフ磨ハ丸ナリ
彦ハ男子ノ美称姫ハ女子ノ美称ナリ日子ヒコ母ハハナリ
往昔ハ呼名ニ父ノ官ヲツケテヨビナリ相模太
郎ハ相模守ノ一男越中ノ次郎ハ越中守ノ二男
倫後三郎ハ倫後守ノ三男ナリ

僧官ニモ父ノ官ヲツケテヨフ古又モアリ、大納言、
律師ト云ハ大納言ノ子中納言、僧都ト云モ中
納言ノ子ナリ、

○殿中納言殿中將トイフ王攝政関白ナトノ御
子ナリ、攝関ヲ殿ト申ス故ナリ、殿法印良忠
ハ執政ノ御子ナリ、

女官ニモ父ノ官ヲツケテヨフ又モアリ、大納言、
典侍ハ大納言ノ女ナリ、伊勢御息所ト云ハ伊
勢守ノ女ナリ、又夫ノ官ヲツケル又モアリ、和泉
部ハ和泉守ノ妻大貳、三位ハ太宰、大貳ノ妻

ナリ、

○餘一與ト云呼名ハ十男ヨリアニリタル子ナリ、那
須ノ與一ハ資高カ十一男ナレハナリ、余五將軍維
茂モ十五男ナリ、

六孫王ト云ハ第六ノ孫王ト云又ナリ、經基ハ
清和第六ノ皇子、桃園親王ノ御子ナレハ六
孫王トイフナリ、平、高棟卿ヲ五孫王トイヒ
ハ桓武第五ノ白王子、葛原親王ノ御子ナレハナリ、
六代ハ正盛ヨリ六代目トイフ又ナリ、

正盛 忠盛 清盛 重盛 維盛 六代

肖栢ヲ牡丹花トイフハ春サカヌハヤコ、ロノ
フカミクサト云秀句アリタルヨリカクイフ
ヨシナリ

○一世源氏トハ皇子ノ源姓ヲ賜リテ臣下一列ナ
リ給ヒタルヲ云ナリ河原左大臣嵯峨帝ノ御子ナリ等ノ
類ナリ二世源氏トハ天子ノ御孫ナリ六孫王
經基ノ類ヲイフ子孫ノ末ニイタリテ代ト世
トノカハリアリ賴光朝臣ヲ清和天皇五代ト
モイヒ西世トモ云ナリ其圖左ノ如シ

清和天皇二代 貞純親王三代 經基四代

滿仲四代 賴光五代

唐土ニテモカクイフニヤ孟子離婁ノ篇ノ註曰父
子相繼為一世云

藤原惠美中臣酒人平群文室ナトノ類ヲ
童姓カサ子ウチトイフナリ稱号ニモカサ子タルモアリ
三浦和田佐々木黒田ナトノ類ナリ

上姓下姓ト云ハ日本ノ姓ヲ上姓トイヒ異國ノ
人日本ニ來リテ姓ヲ賜ハリタルヲ下姓トイフ
ナリ

和上ワ 藤和御前ワコ 和殿トイフ其公其人ヲ敬ヒテ

イフ夏ナリ、和ハ日本ノ号ナリ、人ノ貴賤ハ
姓氏ニヨル、古又ナリ、往古ハ異國ノ人多ク日本
ニ來リ、姓ヲ賜ハリシナリ、サレハ上姓ノ人ヲ日本
ノ氏ナリトウヤ、ミヒテ、和上、賜和殿、和主トイ
ヒシヨリ起リタル夏ナリ、ワシハ松ノ畧トイ
ヘトモ、和氏ナリ、オラモ和等ナリ、ワコレモ和
御料ナリ、西國ニテ人ヲサシテ和次郎トイヘル
モ、和氏郎ナルヘシ、

名字トイフヘキヲ、俗ニ各乗トイフ、又称号ト
イフベキヲ、俗ニ名字ト云、或苗字百三十年許以
前ニテハ武家方ニテモ称号トイヒケルニヤ、平
岩主計頭親吉ノ記サレタル書ニハ、称号トアル
ナリ、

○唐ニハ兄弟ノ次序ヲ伯仲叔季トイヘリ、我國ニ
テハ太郎次郎ヨリ十郎ニテ、或與一與次、與三、又ハ
氏ヲソヘテ源太平次藤三ナト、呼各ニ次第アル
リタルナリ、後世ハカ、ル夏モ零落シタリ、
西國邊ニハ女ノ名ニ袈裟衣千代、袈裟衣龜、龜菊、乙
鶴ナド、イフアリ、古キ夏ハ邊土ニノユリタリ、
御講謚号、年号、文字、大臣名ヲ、名字ニ各乗ノ用ル
事ナリ、

事ナカレ是古ヨリノ法ナリ是ニカギラスハム任定
家藤房武家ニオイテハ頼朝尊氏義貞等ノ
武將ノ名ハ勿論正成元就藤孝等ノ名ヲ用ル夏
ナカレ

女ノ名ニモ輕ト云文字ヲツクベカラス文徳帝ノ御
諱ナリ常信光ナトノ文字モ除ベシ大臣名ナリ
イロフト云ハ物ヲトリアツカフ夏ナリ百寮訓要
ニ天下ノ大夏ヲイロフベキナド外記ノ條ニ書
セ給ヒシナリ西國ノ人物ニカハ又夏ヲイロフテザ
トイフハ此夏ナリ

御前トハ女ノ美稱ナリ姫御前姫御前ノ類
ナリ西國邊ニテヨセアル人ノ妻女ヲオトイフ
音訓ノカハリナリ

丑ノコノ
口ハ助語也

大ハ和名惠沼ナリイヌトモイフ大ノ子ヲ西國
方ノ人ハ丑ノコト云フナリ都方ニテハ丑ノコト
イフナリ

キトコト五
音通ス

樵夫ヲキコリト訓スルハ木切ナリ萬葉集ニ切ヲ
コルト讀ナリ

○尿ヲシト、イフ女子ノ詞ニシト云モシトノ事
ナリ昔ハ車ノ中ニモ尿管トイフモノヲ入レ或

下部ニ持^メシメタリ西國邊ニテハ男女トモニ今
ニシト、イフナリ上方ノ人ノキ、テハ耳オドロ
カス又ナリ、

西國邊ニテ下賤ノ詞^ニ人ノカタニテ食物ヲ喰
フ又ヲロサウト云又少兒ノ母ニ乳汁ナクテ
モラヒ乳ニテ育ルヲロサイ乳トイフナリ、按
スルニ佛氏ノ外ニ出テ食ヲ乞フ^ト邏^ハ育^トイフ
モラヒ喰ヲロサイトフハ是ナルヘシ、

西國邊ニテ人ノ弟ヲヤヘクト云大鏡西三條
右大臣ノ段ニカクバカリス又サカへ給ヒケル中約

言殿ヲヤヘクノ^様梯ト、ニテユ^根エタテマツリタ
マヘリト云云

西國邊土ニテハ年始其外祝儀ニ瓶^子ニテ^ニ酌
ヲトリ、或婚儀ニ酒肴ヲ贈答フル^ニ指樽^ヲ用
ル所モアリ、古風ナル又ナリ、

西國邊ニテ賤女^ハ物詣ナドスル時ハ白布モメ
ニノ類ニテ長キハ千一キヲシテ前ニテ結ビサ
クルナリ、イニシへ賤女ハカクセシニヤ能人狂言
ノ女ハハ知マキヲスルナリ、

桓武天皇以徃ハ皆御徳ノ号ナリ平城天皇以

後ハ或御徳ノ号、或御在所ノ号、是不日ナリ、御徳
号トハ仁明、文徳、光孝ノ類ナリ、御在所ノ号トハ
宇多、醍醐、村上ノ類ナリ、後ノ字ヲ添奉ル、是ハ先
皇ノ御蹤ヲ追フテノ意ナリ、後一條院一條ノ院ノ御子
是ハシメナリ、後ノ字ヲ添奉ル、御徳号ハ添へス、
御在所ノ号ハ添奉ル例ナリ、仁明深草、光孝小松
ニ後ノ字ヲ添へテ、後深草院、後小松院、是ナリ、後
花園院ヲハシメ、後文徳院ト謚ヲ奉ラシカドモ、後
日ニ御沙汰アリテ、後花園院ト改ラレタリトナリ、
是御徳号ニ後ノ字ヲソヘ奉ラヌ故ナリ、

イニシヘノ神道ノ葬ヲ天皇ト称シ、佛道ノ葬
ヲ院ト申奉ルトイフ人アレドモ、意ヲ得ヌ古又
ナリ、持統天皇ハ佛道ノ法ヲ以テ火葬シ奉ル
是天子火葬ノ始ナリ、淳和天皇ハ御遺詔ニテ火
葬ニシ、御骨ヲ粉ニ碎キ、大原山ニキステタメリ
トイヘトモ、天皇ト称シ奉ルナリ、

先代天皇号ニテ、文徳天皇、村上天皇ト申奉ル、
後世ヨリ、文徳村上院ナド、申サヌ意ナリ、又院号
ニテ、鳥羽院、白河院ト申奉ル、後世ヨリ、鳥羽、
天皇、白河、天皇ト申ヌ、難ナキ意ナリ、如何

トナレハ太上天皇ノ尊号アル故ナリ、扶又祭畧記
ノ所見モ亦カクノゴトシ、
海神海上ワタカミ、ワタオモ、ワタノハラ和田原等ノ夕ノ假名ハ清音九ニ方
葉集ニ綿底ワタソコトアレハナリ、

東ノ詞ハ濁音多シサヤノ中山ヲサヤノ長山ト聞
元ヤウニイヘリ、

○依手ヨモテトハ袖ノ夏ナリ、衣ヲソト云フ、衣ノ手
ナレバソテナリ、

メノコムスビトハ女子結ナリ、メノコザントイフ
モ女子算ナリ、

床ニ花ヲ生ルニ掛物、繪梅ナラハ梅ノ花ハイケヌモノ
ナリ、正花ヲ生レハ繪ノ賞翫ウスクナルナリ、

○平張トハ假屋ノ夏ナリ、

○虎子箱トハ小廁ヲカハソ夏ナリ、

ツメタキハ疝痛ナリ、

イクツハ幾ツナンボハ何程ナリ、

イヤシキ詞ニヘラヘイトウト云ハ文選讀ノ如ク、

平等ヘイトウ平筆ナルヘシ

五ノ數ヲゲテトイヘルハ五ハ既古切ナレバナリ、

古キ菊ノ名ニウツハト云モノ色クアリ、能登守教

經ノワツハ菊玉トイフヨリ各付タルモノナリ
六日ハムユカナリ源氏物語ニモ見エタリムイカトイ
フハアシトナリ

領家ヲ武家ニテハ地頭トイフナリ

御料人トハ俗ニ女子ヲイヘドモ男子モカクイ
フナリ康富記ナト考ヘ見ヘシ

茶ハ梅尾ノ明惠上人ヨリハジミリタリト世ニイ

ヒナラハシタレトモ上古ヨリアリタルモノナリ江

家次第シダイ年中チウ夏歌合ナト考ヘミルヘシ

紙ヲモミテウチアフタハフレハムカシヨリア

ル夏ナリ紫式部日記ニ攤ウチ給フ紙ノアラ
ソヒトアルナリ

普通トハ常ナシクノ事ヲイフナリ

一日アハ子バ百日モアハヌト云諺ハ毛詩ニ一
不見如三月

盛唐トハ第一代高祖ノ武徳年中ヨリ第七代

玄宗ノ天宝ノ比ニテライフ中唐トハ天宝ノ末

ヨリ十二代憲宗ノ元和ノ比ニテライフ晚唐ト

ハ元和ノ末ヨリライフナリ

氏神トハ姓氏ノ祖神ナリ春日ハ藤原梅ノ宮

八幡藤森八清原等ナリ八幡宮ヲ清和源氏ノ氏
神ト云ハ義家朝臣神前ニテ首服ヲ加ハ八幡
太郎ト称ゼシヨリ義家朝臣ノ一流ハ氏神ニ
准セラレシナルヘシ清和ノ御末ニテモ別流源氏
ハ氏神トハ云ヒガタシ甲斐源氏ノ氏神新羅明神ト云ヘシ
麦ムギ索ソクトハソウメンノ意ナリ長真法師ノ哥ニ
イカナレハ世ニハオホカルムキナハノ一房ニタニタ
ラヌナリケリ

他界ト云ハ清華等ノ死ヲイフナリ昔ハ高貴

ニカキラス他界トイヒケルニヤ東鑑建久八三二年

八月廿二日記ニ雜色成里去其比他界云云此外
凡人ヲ他界ト云ヌ多ク見エタリ

敗北資治通鑑第三註ニ人好陽而惡陰北
幽陰地也故三軍敗ルヲ曰北云北ト云字ニタルト訓
ヲツケタルモコレナリ

霖雨トハ爾雅ニ三日以上云霖小町ノ歌ニ花ノイロ
ハウツリニケリナイタツラニ我身ヨニフルナ
カメセシニナガメハ霖雨ナリ

勘當トハ其罪ヲ勘ヘテ輕重ノ法ニ當ルト云意
ナリ唐書ニ軍中不暇勘當云云

昂星ヲスバル星ト云ハスルガシ統日星ナリ神代スハ書ニ不坂
一リタル故ニカクイフナリ統ノ字ヲスバルト訓
スス一ルト云モ同韻ニテ通スルナリ神代卷八坂
瓊イヲツ五百箇御統スレトアルナリ
ヨナベト云モ又ハ夜絢ナリ詩國風曰晝ハ爾干某
宵爾索絢云云詩ノ意モアナカク索ハハカリニ
カギラズ

拜趨ノ禮上中下三段アリ夏林廣記等ニ詳
ニ見エタリ趨ハハシルナリ我ヨリ上輩ノ人ニ路頭

ナリ曲禮ニ曰遺先生於道趨而進正立拱レ手云
漢書注師古曰適讀曰嫡云嫡トハ本妻ノ妻ナ
リ其生ウミタル子ヲ嫡子トイフナリ

○外戚ヲハカタトヨムナリ母方ト云モ又ナリ母方ニ
貴賤ノ差別アリ西宮左大臣ハ延喜帝ノ第
一ノ御子ナレトモ更衣腹ニテ位ニツキ給ハス朱
雀村上ハ帝位ニツキ給フニ帝ノ御母ハ中宮
ニテ昭宣公ノ御女ナリ如何ナル親王執柄ノ御
女ニテモ后キサキニタナ給ハ子ハ劣腹ト申スナリ
下賤ノ人ノ詞多キヲ囁カスルト云紫式部日記ニア

ヤシキレツノヲノサヘズリトアリ源氏物語ニモ
アノサヘヅリトアルナリ
各目トイフモノナラヒナクシテ讀ムキハ必古又
理ヲ失フ莫多シ漢字ノ一カヲモツテ書ヲ讀ム
トキハ故實ヲ誤ル莫多カルベシト古人モイヒ
給ヒシ莫ナリスベテ各目ハナラハ子ハナラ又莫
アリタトハ京ニテ平野^上大坂ニテ平野^去ト
タヅ子タラバヲシフル人モアルニシ

道春

近比ノ人一サニイニト云語ニ當^{ニサニイニ}今ト書多シ當今
トハ今上ノ御受ノ上ヲ申奉ルナリ文書ニヨリ
テ斟酌シテ用ウヘシ神代卷ナトニハ今^{ニサニイニ}當ト
見エタリ

金山ハカ子キンザン^{キンザン}徑山^{キンザン}ハゴミチキンザン^{キンザン}秦^シハハ
ダシ^シ晋^シハス、ムシトイフナリ称德聖德正
德^シ藤氏長者東寺長者安房向波モイヒワ
ケ子ハソレト知レヌナリ
人ノ身ノ行ヒアシケレハ我子トイヘドモ下知
ハナラヌモノナリ今川トイヘル書物今世ニ行
ハレテアリ了後ノ質オシテ知ルヘシ
偽作ノ書物ハ其書ノ全体ト文章ト意ノ^ニ

揃ハ又モノナリ偽作スルモノハ盜ニ准ジテ罪
スルト律ト云書ニ見エタルトナリ甲陽軍鑑
トイヘル書物ハ高坂彈正カ筆作ニアラス偽
作ノ書ナリトアル人ノイヒシハサモアルヘシ
争訟刑罪ヲ判断スベキ人ハ我國ノ律令格
式ノ書ヲ見テソレヲ斟酌シテ新法ヲ用ウベシ
イカニ才智勝レタリトモ古法ヲシラズシテハ
誤ル者又アルベシト古人ノ詞ナリ

古今集ノ假名序ハ奏聞ノ序ナルヘシ真名序
ハ奏聞ノ序ニテハアラザルベシ如何トナレハ花山僧

正在原中將文琳野宰相在納言ナト、アジバナリ、

○假名ノ上ヲ略シタルヲ没上ノ假名トイフ下ヲ略
シタルヲ没下ノ假名ト云フナリ出雲ヲイツモ河
内ヲカハキト云類ハ没上ノ假名ナリ支殿ヲドノ
鳥丸ヲカラスト云ハ没下ノカナナリ

鎌倉二位禅尼ヲ火葬シ其骨ヲ薬師佛ノ像
ノ中ニ納テ高野山金剛三昧院へ送ラレタリ此薬
師佛并ニ此時義時泰時兩朝臣ノ漆狀今ニ彼院
ニ現在セリ

異國ノムカシ火葬スル者ナシ大罪アルモノハ

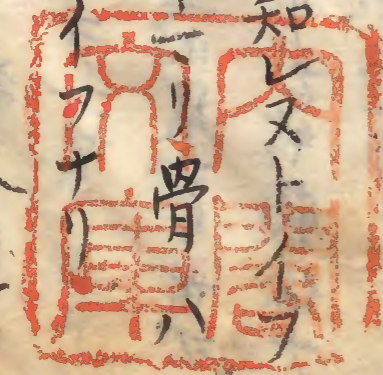
ヲヤキステタリトナリ、我國ノ上代火葬ノ沙汰
ナレ、文武天皇ノ四年、道私音義ヲ清用ユ晶和尚ヲ火葬セシヨリ
起リタリト、續日本紀ニ見エタリ、

モロユシノイニシ、人ヲ葬ルニ草ヲツカ子テ人ノカ
タチヲツクリテ從衛トス、是ヲ芻靈トイフ、略
人ノカタチニ似タルニ、其後偏ト云モノニ、換父
リ、其カタチ百目アリ、太人ニ似タリ、故ニ聖人
其不仁ヲシクシ給ヒタル、夏孟子ノ梁惠王ノ
篇、偏ノ註ニ委ク見エタリ、我國ノ上代、野見ノ
宿禰ノ作り給ヒシ、ニツ埴輪ハ異國ノ偏ノ如キモノ
ニハアラス、

和食抄云
大臣下若
祿ヲ得テ
後ナリ故
トアリ故
トアリ故

中臣ハ名目ナカトミナリナカツオミナレドモ
ツヲノ反トナレバツオヲツ、メテナカトミト名目
スルナリ、近世ノ豊臣モトヨツオミナレトモト
ヨトミト名目スルナリ、

ドコノ牛ノ骨ヤラ馬ノ骨ヤラ知レヌトイフ
諺ハ氏ノホ子生レノホ子ト云ノアヤ、骨ハ
尸ナリ、姓尸ト書テウチカバ子トイフナリ、
豊臣太閤朝鮮ヲ伐給ヒシ時、彼國ヨリ日本ノ富
士山見エタルヨシ、記シタル書物アリ、地理ヲワ



キ、ハザル人ノイヒシヌナルヘシ、
鶯ノヒナニ笛ヲキカシテ、三光ヲ囀リ、猿ニヲシテ
ハ舞ヲシテ、人ノ子ニ教ヘザルノ理アラヤ、
嵯峨大覚寺ノ後ノ山ニ仙人水トイヘル泉アリ、サガ
ノ人家此水ヲ元朝ノ若水ニ汲トナリ、古キ風俗ナ
リトイヘリ、

琉球國三、二年ニ二度米ヲサムルトナリ、正月ニ種
蒔テ、五月ニ刈、六月ニウエテ、十月ニ刈トイヘリ、
桑原トイフ所、公カシ菅家ノシロシメシタル所
ナリ、延長ノ霹靂、其後度々雷ノ墮^{オチ}タリシ時、此

桑原ニハ一度モオチズ、雷ノ災ノナカリシトカヤ、ユ
レニヨツテ、京中ノ兒女子イカツチノナル時、桑
原々々トイヒテ呪シケルトナリ、今ニイタリテ
カクイフヌナリ、

雪ニテ佛ヲ作り、達磨ヲツクリ、此外色々ノケ、タ

モノ、カクチナラ作ルヌ、昔ヨリノヌナリ、異國ニテ
モカ、ルヌ、ア、ルニヤ、張文潛カ雪獅子ノ詩アリ、

今俗ニ鶏ヲ喚ブニ、登々ト云フ、古ハ都々トイヒケ
ルニヤ、万葉集ニ都々登々ハ五音通スルナリ、上古
ハスベテ、諸鳥ヲヨブニ、都々トイヒケルニヤ、古ヌ紀ノ

張文潛

雪獅子詩

六出花成百獸王

日頭出後使節當擗眉挂眼人誰怕想汝應無熱肺腸

都々トイフ詞ヲ義訓シテ、
都々トイフ書リ

歌ノ詞ニ都々トアルハ千鳥ヲヨブ聲ナリ
萬事今ヲ知テ古ヘヲ知ラザルハ盲者ノ類ナリト
古人ノイヘリ

日ノ暮ニカニルヲ夕ソカレトハ誰彼ト見ワケカタ
キ故ナリ

葦ヲヨシト云梨子ヲアリノミト云ハ轉語ナリ
ナイモノハナイト云モ轉語ニテアルモノハアリト云事ナリ

一樹ノ陰一河ノ流ト云諺ハ古文類談ノ詩ニ汲流
一河接弥深屏雨一樹思殊親ト是諺ノ意ナリ

井ニ三品アリ椀井筒井ナリ石ニテ一木ニテ一
底ヨリ四角ニ組アゲタルヲ椀井ト云圓ク
シタルヲ筒井ト云今ノ世ハタヤスキ故ニ筒井ニ
スルナリ椀井ハ住吉ノ社内ニアリ

サイトリハサシ鳥ナリ俗ニサイトリサシト
イフハ重言ナリ

ラツシモナイト云詞ハ臈次モナイト書ベシ臈ハ
年臈ナリ次ハ次第ナリ上臈ハ下座ニツキ下臈
ハ上座ニツクヌナトハ臈次モナイヌナリ
オレナヘテト云詞ハ押並而ナリ

○キタナキ夏ヲ古語ニラゾトイヒシトナリ高野山ニラゾ川ト云アリ不浄ヲ流ス川ナリ

猶子トハ異國ニテハ甥ノ夏ヲ云ナリ禮記ニ兄弟子ハ猶子トアリ日本ニハ猶子トハ子分ニスル夏ヲイ

フナリ是ニカギラス異國トハ各別ノ事アリ我

國古ノ製法ヲシラス漫リニ難ズル事アルハナラス

反閉トハ陰陽家ニ地ヲフミシヅムル夏ナリ行幸

ノ時ナト此夏アリ行幸ニ陰陽寮御先へ參ル

モ是故ナリ今ノ能ノ公卿ニ番ニハ反閉ナリ舞臺

ヲフミシヅムル事ノヨシナリモト陰陽家ヨリ

傳ヲ得タルモノナリトイヘリアシドリニナラヒ

アリト云ハ是故ナリ俗ニハガホ或ヘンバフムト

云モ反閉ノカホノゴトク反閉ノ足ドリノヤウニ

スル夏ヲイヘリ

メンドウナル夏ト云諺ハ著トイフ夏ナルニヤ

田舎ニテ著ヲメンドウト云莖ヲトルニ及シテ一

メヲナシテハ反シテ卦ヲナスナリ其仕様ノ周

徠ナレハメンドウナル夏トイフ俗言ノ出タルナルヘシ

淀川ヲ登ル舩ニテトウト云アリ淀登舩トイフ

夏ナリ淀ハ徒練切音殿ナリ

徠

流罪ハ堯舜ノ時ヨリアリタルナリ尚書ニ流共
工ヲ幽州蔡氏註流遣而遠去如水之流也放
置之於此不得他適云

平家物語ハ古キ詞アリテ耳遠キヤウナレ
トモ幾カヘリ見テモアカズ太平記ハ文勢モハ
ナヤカニ聞レトモ數反見ニシレ况ソレヨリノ
千軍物語ハ二反トハ見ラレス何ニテモフルキ文
ノオモシロキ

オボロゲトハ聊余ナリ

屈産兼トハ名馬ノ古又ナリ左傳注曰屈地生

良馬史記世家註曰屈産出名馬之地備駟也

云云屈支國ノ夏ナリ丘茲トモ龜茲トモイフ孔

雀モ屈地ヨリ多クイヅルトナリ

風儀風俗トモニナラハント訓スレトモ意ハタガフ

ナリ風儀ハ上ニヨリ教ヘテ民ヲナラフ又ナリ

通鑑綱目曰無勅者不言風儀云風俗トハ民俗

ノナラハシナリ山槐記風儀竟為風俗ト見エ

タリ

古老云我仕官セシ時公私ニツキテ人ノ追捕ヲ

見タル夏度アリ其家ニ書籍ナトヲ貯ヘタルハ心ニクシ一

卷ノ文書モナキハ無下ニ浅間敷見ユルモノナリ、
器財モ常ニ目ナレタルハヨシ、唐メキタル異様ナル
モノ或分限ニ應ゼヌ器ヲ多クタルハタルハ見グル
シトイリ、

年ノ始ノ門松ハ官家ニナキヌナリ、古書ニ賤カ
門松ト見エタルハ往古ヨリ賤キ民ノ風俗ナルハ

○永樂錢知行ノヌ、幾内近國ハ百貫ヲ十石充ル
遠國ハ百貫ヲ八百石七石六石五百石ニアテ
タル所モアリ、幾内近國、其外廣邑ハ運送々ヤヌ
キ故ニ米ノ價賤シ、遠國僻地ハ運送艱難シテ價

ヤ、貴シ是故ニ國々價同シカラス、陸奥ナト昔千貫ヲ
以テ百石ニ充ル、今世ハ五貫ヲ以テ百石ニ充ルナリ、
往年高野山ニ數日アリシヌアリ、此時ニ彼山ニ成就
院ト云寺アリ、此寺ハ伊達中納言卿ノ時ヨリ、
十二貫ノ地ヲ寄進セラルト聞シ故、委ク々々子ニ
二十二貫ノ米高、凡九十六石ニテ四ツ物成ニシテ二百
四十石ニ當ルトナリ、是則五貫ヲ百石ニ充ルナリ、
永祿ノ比參河國ハ百石、百貫ニ當リシニヤ、東照宮、
參河國住人鈴木ハ右衛門ト云人ニ十貫ノ地ヲ賜、
リシ八十石ニアタルナリ、未ク深溝家日記ニ見エタリ、

上代ハ金錢銀錢銅錢ノ三ヲ通用セシナリ此時金
錢一文ハ銀錢十文ニアタリ又銅錢百文ニアタリ
タルトナリ

八ノ家居ニ門ヲ四ツアケヌモノナリ四アケヅレテ叶
ハヌヌアラハ一方ハ必常ニフサキテオタリ然レト
モ榎家ハ四門ヲ吉事トシ給フトナリ其故ハ藤
氏西門トテ南家北家式家京家ト別レテ栄
ヘ給フ故ニ是ヲ吉事トシ給フナリトイヘリ

伊勢國素名ノ七里ノ渡海中ヨリ信濃國淺間
嶽ノケムリ見ユル所アリトイヘリ伊勢物語ニ
伊勢ヤ尾張ノ海ヅラヲ見テトイフ次ニ淺間
嶽ニタツケムリノ歌アリ次ニ參河國八橋ニテノ
歌アルハ此故ニヤ

戀ステフコロモホステフナド、イフ歌ノ詞ハ戀ス
トイフ衣ホストイフトノヌナリトイノ及シ千
ナレトモ千トテトニ四ノ假名通シテテフトイフナ
リ吉野ナルナニハナルト云詞モ吉野ニアル難波ニ
アルトイフヌナリ万葉集ニ吉野ヨシノ在トアリ是
モアノ及シナナリ是等ヲ假名及シトイフナリ
平家物語ニ實盛ガイヒレ詞ニアツハレオノ鞍火

日本一ノ剛ノモノトクムテウズヨノフレトテ、鞍ノ
前輪ニオレツケテ、首カキ、ツテステ、ケリト
アリ、此ヨロハ我カ如キ、日本一ノ兵ト組、トイフカ
トテ、組、メリシ、又ナリ、テフト云ユトバ、今モ越
路ニイフトナリ、又ノフレトハサ子モリカ生國越前、
國ニトバナリ、今モ越前ニテハ詞ノアトニ、ノレト
イフ詞アリトナリ、俗歌ニ加賀ノガニ、越前ノ
レニ都ノ又、東男ノサノオカシキ、トイフ、又モ
アルナリ、作者 信濃前
司行長 心ヲツケテ書タルヲシラズ
シテ、實盛ト云、謡ニクンデウズヨト云ハ、謡ノア、ヤ
マリナリ、グムデフズヨト、ウタフニヨリ、テ、イロク
ノ説ヲツケテ、イフハ、皆僻、又ナリ、組、テフズ
ヨトイハ、能ク聞エテ、スム、又ナリ、心不在焉、視而
不見、聽而不聞、云、明、カナル目、トキ耳ノアリ
ナカラ、見聞タル、又ヲ誤ルハ、盲ノモノ、ヲ見
ス、聾ノ聞、カサルニ、オトル、シ、メクラノトモ、シ、火
ヲ提、提、テ、夜行スルハ、目ノアキラカナル人ノ、行
アタラザルタメナリ、トイヘリ、サレバ、萬ノ、又、心
ヲ用井ザルハ、アヤウカルヘシ、

○藥ハ調合スルトモ、合ストモイフ、香具ハタムト

云へしトアル貴人ノ仰ラレシトナリ薰物ナトハ
アハストモイフニヤ紫式部日記源氏物語
等ニ御タキモノアハセト見エタリ

獵師ハ和名カリビトナリ獸ヲトル人ナリサレド
モ音ニテレフシトイハ魚ヲトル人ニモナルナリ

昔ヨリ通用シテイフナルヘシ西行上人ノ歌ニ
レフセントヨミ給ヒシナリ又漁ハ和名スナドリナリ

万葉集ノ所見スハ鳥ナハ魚ノ支ナリサレハ魚
ヲトル支バカリヲスナドリト云ハイカナル支ニヤ
物部ノ八十氏トイフハ武士氏多キ支ヲ云トイ

ト或物部姓ニ支別多クテ八十姓アリト云支ナ
リトイフ此ニ説トモニ非ナルヘシ倭姫命世記ヲ考

ニ役ヅ、支ヲ掌ル人ノ種類ノ多キヲ物部八十
氏ト見エタリ

木兄木芥

火 土 金 水

エトハ兄弟ナリ干支ハ三字ヲエト、ヨシ或甲

子庚申ナトヲエト、云人アリ皆非ナリ甲丙

戊庚壬ハ兄ナリ己丁巳辛癸ハ弟ナリ甲ハ

木ノ兄ハ木ノ弟ナリ西ハ火ノ兄丁ハ火ノ弟ナリ

古ハ圓キ支ヲツブラトイフ人ノ名ニツブラト

云モアリタルナリ粒ノ字ヲツブド訓スルモ

ツフテノ下畧ナリ人ヲ頭ヲツブリト云モ是ナ
リ

誤ヲイヒ傳ヘテモ又ニヨリテ妨ナキモ又モアリ
梟首ヲ獄門ト云ヤウナル又ハ誤テモ妨ナシ
禁制ト法度トヲ世俗ニ同又ノヤウニ覺エタル
人モアリ是等ハ又ニヨリテ妨アルヘシ假令禁制
ハ盤妨狼籍スル又御禁制也ト書法度ハ盤妨
狼籍セザル事御法度也トカカ子バ義理ニ背ク
ル又モアリ又ベシ
往來ハ人々ニ吞奉御法度ナリトシテ
シヨクノ事ト聞ユルナリ
○書籍ノ朱引ハ所ノ名人名官名書名年号ナトシ

一ギレヤスキヲワカツタメナリ紛レザル又ニ朱引
スルハ無用ノ又ナリ今書肆ニアル古キ日本紀
ナトニ天照太神素戔雄尊大己貴命等ノ神
名或至尊ノ諱諡号ナトニ朱引シタルモ
アリ是等ヲ人名ニ比シテ朱引スルハ謂レテキ
又ナリ

葱ノ異名ヲ一文字トイフ根ノ深ケル根深ト
モイフ根葱別葱ニ十種類ナリ
文章ノ法ニ平出闕字ノ二品アリ平出ハ上ヘ
アゲテ本行ト平等ニ書ク欠字トハ一字欠ヲ

云ナリ、オノヤウニ書テ日本ノ法ニ違先多シ書札近比印行ノ書物ヲ見ルニ異國ノ札法通用ノ俗文章ニハ却テ平出闕字ハソムカ

又ナリ、明ノ文章ノ法ニ五字權頭ニテアリトナリ一字權頭ハ本行ヨリ一字高ク書キテ存リハ二字高ク書ヨナリ

ムカレハ畜産ノ人ヲ觥モノハ兩角ヲキリ人ヲ
フムモノハ絆オビヲツケ人ヲカムモノハ兩耳ヲシ
リテ其シルトス是ヲ慄慄羈絆ノ法トイフ、
或狂犬ヲ其ヌレ殺サス及慄慄羈絆法ノ如ク
セサル人ハ罪セラルト律ニ見エタルトナリ、

鶏犬猫ハ他所ヘユキテ花壇ナトヲ損モナリ、

ヨロツノ藝術イカニ手練シタルトモイフヒモナク
シテハ進退賤ク見ユルモノナリ、師ヲ撰テ學フ
ハシ、

髪ヲソリテ佛道ニ入りタルヲ入道トイフ、東
三條殿入道ニ給ヒ其御子御堂殿モ入道ニ
給ヒタル故東三條殿ヲ大入道殿トイフ、天下
是ヲイミハツカリテ入道ノ人ヲ新登意ト
イヘリ、滿中朝臣ヲ多田新登意トイヒタル
モ其比ノ莫ナリ、
ムカレハ僧尼天文ヲ學ヒ軍書ヲ讀ヨク或吉凶

ヲ右トシ巫術ヲナシ人ノ病ヲ醫療シ金銀米
錢ヲ人ニ借シテ利子ヲ來メ又ハ音樂ナト
スル時ハ其輕重ノ罪ニ行ハレタリ又僧尼私賣
ノ訥訟ニ依ッテ官司ニ來ル時ハ法衣ヲ着セスカ
リニ俗躰ニナリ俗ノ姓名ヲ名乗ベシト今ニ見
エタルトナリ
一ト井ハ圓居ナリ俗ニ車座^{クルマザ}ニ居ルトイフハ是
ナリ

ヨキ人ノ子ハ幼少ノ時ハ禰^ミク見エテモヨキ夏
ヲ見ナラヒテ次第ニヨクナリ下賤ノ人ノ子

唐 破 案

ハ幼キ時ハ發明ニ見エテモ次第ニイヤシクワロ
クナルナリ諺ニイフ龍ノ子ノ蛙ニナルコトシ
其ホドクヨリ能ハナリガタキモノナリ
書ヲ学フモノハ紙ヲ費^{ツイヤ}シ醫ヲ学フモノハ人ヲ
費スト唐ノ東破ト云人ノイヒタルトナリ私欲ノ
深キモノハ心ノ明ヲ費シ淫酒ニ溺ルバ壽ヲ費ス
ナルヘシ

往古ヨクテ今アシキ夏アリ昔アシクテ今能キ
夏モアリ世ノウツリモテユクニ萬ノ夏ニカ
ハリアリ軍陳ノ法モ昔ハ未熟ニシテ備立モシ

カト定テス騎戦ヲ好ク熊谷平山ノ類ヲ武
印トセシナリ後世戦法備ハリテヨリヌケガケ先
ガケ等ヲスル人ハ大將是ヲ罪セラルナリ鎌
倉殿ノ熊谷小次郎ヲ日本無双ノ兵トイヒ
給ヒシハ一谷ノ戦功故ナリ後世ヨリ是ヲ論ス
ル時ハ熊谷ゴトキ人アラハ大將スル人ハ日本無
双ノ馬鹿者トイヒ給フヘキニヤ

一條禪閣ノ桃花老人ト書カセ給ヒ此外有徳ノ
人何ノ老翁何ノ道人或野叟ナトカレシメ
ル類ナラヒテ徳モナキ凡下ノ人或俳諧連歌

ヲスル輩カク妄ニ自書スル者然ルヘカラス
昔法印ノ愚老愚翁ナト書給ヒシモ其人
ナレハ世人コレヲトガメズ又和歌ノエトバニモ我身
ノ衰ヲ賤トヨムハ高貴ノ上ニテノ詞ナリ西行
上人念ナキ身ニモアハレハシラレケリトヨミ給ヒシ
モ其人ナレバナリ普通ノ人念ナキナドハイハヌ
衰ナリ元来心ナキ身ナレバナリ平常ノ詞ニモア
ナリ謙退シスギヌレハ却ツテ無礼ニナル事モア
リ書札通用ノ俗文章ニモ我身ノ衰ヲ拙著
或愚拙或愚意愚按ナド書事モ斟酌シ

テ用ウヘシ。

高靴ハ高トモナリハ雲御鈔ニモ高トモアリ今
卯本ノ神代卷ニ高カラト点シタルハ靴ヲ柄ニ
ガヘルニヤ。

遠

或人云ハイルト云フハ遠入ナリサレバ客来ルトキ
主人ノ御ハイリヤレトイフハ礼ノ詞ナリ已カ家
ノヒキクセバクテ身モイレガタケレハヒイリ給
ヘト云ヌナリ客ノ方ヨリハイルヘシトイフハ無
礼ノ詞ナルベシトナリ唯樂磨按スルニ論語曰
入公門鞠躬如也如不容注云鞠躬曲身也

公門高大而若不容敬之至也云是ヲモテ
見レハ門戸廣シトイヘトモ敬屈シテセバキカゴト
クハヒ入ルニト容ノ方ヨリイフモ礼ノ詞ナルヘシ
君ノ臣ニ答ヘ給フヲ勅答トイヒ臣下ノ君ヘ答
ヘ奉ルモ勅答トイヘリ是君臣ニ通用スル詞
ナルニヤ。

或人云日本ニ女ハ多ク男ノ少キハ天照太神ノ陰
神ノ御國ナレハカクアル古又神國ノシルシナリト
イヘリ唯樂磨按スルニ是太僻説ナルヘシ凡天地
ノ際ニ生スルモノ皆陰陽ノ氣ヲ受テ生ズルナ

リ日本ハ北極地ヲ出ル夏三十餘箇度ノ地ナレハ
陰氣多ク陽氣少シ是故ニ女ハ多ク男ノ少キハ
理ノ當然ナルヘシ廣ク萬國ヲ以テ論スル時ハ
赤道ニ近キ國ハ是ニ及シテ男ハ多ク女ハ少カル
ヘシサレハ男女ノ多少ハ日道ノ遠近ニヨルヘシ
ト思ハル山野ノ鳥獸ニ雄多ク海川ノ魚鱉ニ雌多ク是モ陰陽
ノ地ニ生スル故ナルヘシ
土地ヨリテ鳥ケダモノノ音モカハルトイヘリ
嚙樂磨一年肥後國球麻郡ニアリシ時是ヲ
キ、考ルニウグヒスホト、ギスハ幾内ニハ劣レ
リ、蛙ノ声ハハルカニサリタリニツムシスバムシカ

声ニトニオモシロシ

甲斐源氏ヲ新羅源氏トモイフハ新羅三
郎ノ苗裔ナレハナリ

驛馬ヲハイマト訓スルナリハイフモ驛符ナ
ルヘシ

軍中ニテ曹首ヲトリタルヲモギツケトイフ
菓ナトヲ枝折ニシタル意ナリトイヘリ
入子首トハ素首ヲ取テ拾ヒ曹ヲ著セタルヲ
イフナリ士タルモノ、ナスヘキ又ニアラス
九國松浦ノヒレフル山ハ佐世姫カ領中ヲ振テ

夫ノ船ヲ一子キタル山ナリトイヘリ領中ハ女ノ
首ノカザリニスルモノナリ今ノ世ハアリトモ聞
エス

○奉勅ノ書竹籍此外晴ノ書物ハ八行十六字ニ書
モノナリト晴ダ、又モノハイカヤウトモアルヘシ
ト聞ケリ

父ヲテ、トイフハ五音通スレバナリト、トイフ
モ通スルナルヘシ母ヲカ、トイフモ同音通スル
ニヤ田舎ニテハ父ヲト、オヤ母ヲカ、オヤトイ
フ所モアリ

阿保トハ乳母ノ妻ヲイフナリ是ヲ古ヨ
アコト訓スルナリホトコト同音通スルニヤ西
國邊ニテ母ヲアホウトイフ所モアリ是ニヨ
ルナルヘシ

船ヲ繫ツナグ棧シヲカ、ト、物ナリ順和名鈔曰唐
韻云牝物牝ニ音漢所以繫舟ト見エ夕
リカセトカレハ五音通ス

家ツトハミヤゲナリ山家ノミヤゲヲ山ツトト
モイフ

○千葉大女ハ前下總女ナリ千葉新女ハ大

關東ニテ河端
ヲシトイフセ
是々但ニ川岸
カ

女が子ニテ、**當任ノ下總女ナリ**、三浦ノ大女、大
内、新女等ノ類是ニ同シ。

上手ノ着セタル**装束ハ進退タヤスク**、下手ノ
着セタルハ**窮屈ナルモノナリ**、就中下手ノ搔
タル袖ハ重キモノナリ。

○**装束ノ袖ニヒダシトルヲ搔ト云ナリ**、物語ノ
書ニ袖搔合トアルハ是ナリ。

鎌倉將軍家ノ屋形造ニ**寢殿アリ**、母屋廂
中門廊中門侍遠侍ナド、云所アリタルト
見エタリ、此等ノ事モ室町家ノ時ヨリ一七

シタリ、書院トイフモノモ古キ書物ニハ見
ス、**玄関トイフモハルカニクダリテノ世ニイデキ**
タリトナリ、今玄関トイヘルハ古ノ中門ノ古又
ニヤトオモハル。

往昔ノ武士公堂ニ弓箭ヲ持タセシトナリ、室土
町家ノ比ヨリ弓箭ヲヤメテ、**長刀ヲ持セシトナ**
リ、鎗ヲモメス、**應仁戰國ヨリ後ノ古又**
ナリト聞シ、慶長以後大樹御上京御參内
ノ時、長刀ヲ持サシメ給ヒ供奉ノ諸士モ長刀
ヲ持セシトナリ。

唯樂磨西國へ下リシ時長門國赤間関ヲ一見
セシ此所ニテ魚ヲ賣ルモノハ女ナリ平ナル
桶ニ魚ヲ入レテ首ニイタゞキサカナメサレヨ
引トイフナリ其躰都ノ柴賣ノ女ノエトシ
土人云往昔此所ニテ平家亡シ時貴賤トナ
ク平家方ノ女ハ此邊ノ漁人ナドニ身ヲ
ヨセテ魚ヲ賣リタルヨリ今ニ至リテ此風
俗ナリトイヘリ

旅行ノ時假宿へ着タラハ先方角ヲワキ
所々ノ案内及閑所ノアリ所ヲヨク見
サテ休息スヘシカクセザレバ不時ノ騷動
火等ノ時ウロタヘルモノナリ

或人問曰上古ノ非藏人ハ諸大夫ナリ侍臣
ノ子ハ勿論公卿ノ子モ非藏人ニ補シテ六位
藏人ニナリ其後器量ニヨリテ出身セシ復
古記ニ見エタリ今世ノ非藏人ハ無位無官ニ
テ出身セザル夏ハ如何ナル故ゾヤ唯樂磨答
曰後世朝廷ノ表ニテ諸ノ官負多ク欠テ昔
ノ非藏人ハ向ナクナリムカシハ女孀ト云モ
表向ノ雜役ヲツトメ宿直ノ公家衆ニモニヤ

ツカヘシタリ。然ルニ近世男女ノ差別アリテ、女孀ヲ
 常ニ表向ヘツカハレズ。是ニ依テ、加茂稻荷松尾ノ
 社家、其外筋目ヨキ人ヲ召出サレ、表向ノ雜役
 ヲツトメサセラレシトナリ。是ヲ女孀代トイヒ
 シトナリ。此女孀代トイフ名目ヲ、彼人々イヤガ
 リシ事ナリ。是故ニ女孀代ヲ、非藏人ト改ラレ
 シナリ。名目ハ同シトイヘドモ、往古ノ非藏人トハ
 大キニカハリタルモノナリト聞及シナリ。
 攝津國長柄豐崎宮ハ、
 孝徳天皇ノ、
 皇居ニ寛保辛酉年一丁一千九十七年ニ元
 難波橋筋ヨリ西ニアタリ、寺町ヨリ南ノ

北野ハ今ノ所ナ
 リ今ノ大講寺ハ
 河原ノ左天皇
 建立セシト云

邊ナルヘシ今ニ北野ト云所アルハ古キ名ニシテ皇
 居ヨリ北ニアタリタル故ナルニヤ。曾根崎ト云所
 ハ豐崎ノ音ノ轉ジタル故ニヤト思ハル。昔ハ曾根崎ト
 サキト云ヘリノト子ハ五音通ズル故ナリ。寶永年中、新地町屋
 出来ノ比ヨリ、文字ノ一、曾根崎ト云ヘリ。是等ヲ以テ按スルニ
 ソノサキハトヨサキト云ヘリ。又天滿トイフハ後世
 ヤトヨソノ同韻通ズルヘシ。天滿宮御鎮座以後ノ夏ナリ。人テ本庄村ノ
 森林ノ中ニ社ヲ建テ、長柄豐崎ノ宮ノ舊跡ナリ
 ト云ハ、四五十年前ニ好喜人ノユシラヘタル夏
 ナリト云。光立寺村ニ住ム人ノイヘリ。
 官家ノ女中ハ八月十五夜ニ芋ヲ箸ニ貫キ、

